

カツオと鯉のぼりの川渡し フェスティバル



カツオと鯉のぼりの川渡し

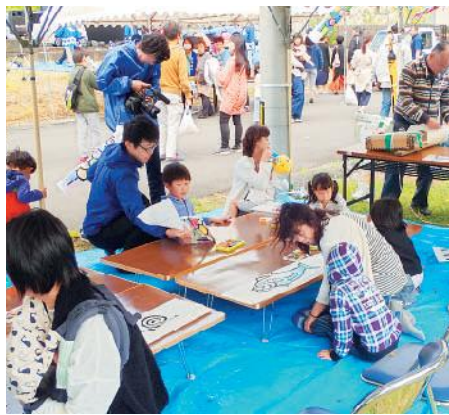
坂折地区カツオと鯉のぼり実行委員会による「カツオと鯉のぼりの川渡し」が4月22日(日)～5月12日(土)まで開催され、5月3日(木)にはフェスティバルが開催されました。

100匹を超えるカツオのぼりと鯉のぼりや、手作りの鯉のぼりが伊与木川周辺に展示され、ゴールデンウィーク中は県内外から多くの方が訪れ、期間中は約3000人を越える来場者で賑わいました。

フェスティバルは今年で11回目。佐賀中学校吹奏楽部による演奏や、鯉のぼり絵付け体験などの催しが行われました。



フェスティバルの様子



鯉のぼり絵付け体験

また、手作りの鯉のぼりプレゼントは子どもたちに好評で、もらった鯉のぼりを風になびかせて楽しみました。

実行委員会会長の大谷清水さんは「今年は晴れて良かった。たくさんの方に来ていただきとても感謝している。来年以降も開催できるようにがんばりたい」と話していました。

高知県自主防災組織知事表彰



表彰式の様子

平成30年3月に「平成29年度高知県自主防災組織知事表彰式」が行われ、黒潮町から浜町地区自主防災組織が受賞しました。

浜町地区では東日本大震災以降、黒潮町が開催する津波避難訓練に加え、地区独自の夜間避難訓練や保育所・小学校・中学校との合同津波避難訓練などを行ってきました。

そのほか、避難行動要支援者を中心とした屋内での避難訓練なども行い、このたび、このような活動が認められ受賞しました。

受賞当時、同自主防災組織の会長だった吉本幸さんは「今後この表彰に恥じないよう、これまでの活動を継続して備えていきたい」と意気込みを語っていました。

佐賀保育所開所式

4月22日(日)、昨年5月より建設を進めていた佐賀保育所が完成し、開所式が行われました。

旧佐賀保育所は海拔6・2mの津波浸水区域に立地し、災害に備えて移転を求める保護者の署名活動が平成25年5月より行われ、2779名の署名が集まり移転の運びとなりました。

新しい保育所は、海拔25・65mの場所に建設され、延べ床面積733・88㎡、災害に備えて職員室から保育室を見渡せる工夫がされています。

町内の30代女性は「津波が来たら子どもが逃げられるか不安だったが、高台に移転となり親として安心した」と話していました。

式では、町長より工事関係者の方への感謝状が贈呈され、園児からも感謝の言葉が贈られました。



佐賀保育所開所式

新住所 伊與喜699-1
伊与喜小学校の東側に位置します。